



●お天道様のもと堂々と歩む（再び）

東洋電機株式会社 代表取締役社長

会長 松尾 隆徳

景気回復した現在、過去の不況時を思い起し、気をゆるめることなく会社経営のあり方をより固めよう。三年前の「技術のひろば」（2002年春）に載せさせて頂いたものを再び載せて私の決意といたします。

厳しい経済環境下で、連日会社経営に七転八倒しています。日頃からばく然と思っている事を思いつくまに記します。

1、自己責任

最近よく言われています。どうやら、「これ以上に頼られても何ともならないよ。自分の力でやって下さい！…」とつき放した様な場面で使われている様です。

本当の意味は「結果に対して責任を持つ」という事でしょう。経営者にとって本当に肝に銘じる言葉です。だからこそ自助努力を毎日毎日コツコツと積み重ねばなりません。

わが国の現状を見ると中小企業の経営者の方が、現在、自己責任を最も自覚している様に思います。もっと自信を持つべきだと思います。

2、鍛冶屋とデキ物は大きくなるとつぶれる。

私の父が絶えず言っていた事です。最近になって意味が判って来ました。いくら良い性能・技術を持っていてもあなた任せの便利屋では会社が大きくなると、つぶれますよ。…という風に理解しています。自主性、主体性のある経営が要求される。自己責任にもつながります。

3、小さくともたくましい企業

どうも、私の会社も「そこそこ

の大きさの普通の企業になっているようです。特色がうすれ、何でもこなすが、これと言ったものはなし、オール3の企業の様です。鍛冶屋の様なものです。冒険・挑戦する勇気を取り戻そう。それには若い人達を前面に押し出し、権限を与え、年寄りほうしろへ。

私も60歳近くになり経営者としてどうも守りが先行し勝ちです。空洞化の最大原因である高賃金下での物づくりにはたくましさ、非凡さが必要です。

4、世の中に役立つ会社

少しでも多くの社員を雇用し、幸せになる土俵を提供し、技術・サービス・製品を通して社会に役立ち、利益を稼ぎ納税することが企業の最低の責務でありましょう。

そして、少しでも長く企業を永續させることが大切です。本当に毎日毎日なやみながら、挑戦していますが、なかなかできません。

社長の器以上の会社にはならないと言われ、カッカとくる毎日です。やはり、社員一人ひとりを立派に育てる。そして、自発的に働いてもらう明るい会社の環境づくりが経営者の役目のように思います。

もちろん、数値も大切なことですが、同じ様に共に働く人々の生きがい、働きがいを共有・実感する企業を共同で作り上げるという夢を持ちましょう。

最後に私の美学のごとき考えですが、ボロを着ても良い。お天道様のもと、堂々と胸をはって歩ける男の人生を企業経営の中で実現させたい。是非とも未熟な私に教えてください。（2002、春）